令和7年4月　第69号

森林ふれあい情報

林野庁中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター
〒397-0001
長野県木曽郡木曽町福島5473-8
TEL：0264(22)2122
E-mail：kiso-fureai@maff.go.jp

先々月には、岩手県大船渡市で大規模な山林火災が相次ぎ、長野県上田市等各地でも山火事が発生しました。引き続き空気が乾燥する時期が続きますので、火の取り扱いには十分気をつけましょう。

令和6年度　中部森林・林業交流発表会

２月 13 日（木）14 日（金）に中部森林管理局主催の令和６年度中部森林・林業交流発表会が開催され、当センターの１課題を含む国有林と民有林を合わせて全 23 課題が発表されました。

この発表会は、当局管内の各署等や地方自治体、大学、高校、林業事業体等が日頃から取り組んでいる成果の発表を通して、森林・林業・木材産業の発展に資することを目的に毎年開催されているものです。

当センターからは、「湿性ポドゾル地帯の更新法～三浦・助六実験林のあゆみ～」と題して、技術普及課・木曽森林管理署と共同して発表を行いました。

三浦・助六実験林　位置図

三浦実験林は、台風により甚大な被害にあった木曽ヒノキ林等の森林再生に向けて、湿性ポドゾル地帯の更新方法や施業方法確立のため各種試験地を設定し昭和 41 年度から調査をしています。今回の発表は、ササの抑制（刈払い及び薬剤散布）により天然稚樹の生育状況を調査している「筋刈更新試験地」等について、これまでに得られた成果の発表を行いました。

発表会の様子

発表後の講評では、笹の抑制を今後も継続していき天然林に誘導していけるよう

に期待している等、貴重な意見をいただきました。これまでの実験林の成果も踏まえながら、局・署と連携して今後も調査に取組んでいく考えです。

なお、令和６年度発表会の様子は中部森林管理局 HP で紹介されていますので詳しい内容はそちらからご覧ください。

「木曽悠久の森」設定 10 周年記念シンポジウムを開催

２月 20 日（木）、「木曽悠久の森」設定十周年記念シンポジウムを長野県上松町の「ひのきの里総合文化センター」にて開催しました。

中部森林管理局では、天然のヒノキ、サワラ等の木曽五木を含む温帯性針葉樹林（おんたいせいしんようじゅりん）を厳格に保存・復元するため、平成 26 年に木曽地方（長野県内の木曽谷や岐阜県内の裏木曽）の国有林約 17,000 ヘクタールを「木曽悠久の森」として設定してから 10 周年を迎えました。

木曽地方には、針葉樹を中心に様々な植物や動物が生育・生息する森林が残されており、温帯性針葉樹林と呼ばれ、世界的にも大変貴重で希少なものです。また、古くから良質の木材産地として、歴史的・文化的に貴重な社寺仏閣等の維持や、地域の木材産業の継承・振興に大きな役割を果たしてきました。

「木曽悠久の森」とは

木曽地方に現存する温帯性針葉樹林をまとまりと連続性をもって保存するとともに、人工林は天然林に誘導し温帯性針葉樹林への復元を図る区域として、「森林生物多様性復元地域」を設定（平成26年4月）。　※「木曽悠久の森」は公募により決定した愛称

1

本シンポジウムは、温帯性針葉樹林の姿やその希少性、歴史的・文化的な建造物等の維持に果たしてきた役割を共有するとともに、生態系の回復に向けた先進的な取組として、この森の将来の姿を地域とともに考えることを目的として開催され、地域住民、地元学生、県・市町村関係者、森林・林業関係者、当局職員な

ど、約 200 名が参加しました。

はじめに中部局から「木曽悠久の森」の設定に至る経過やこれまでの取組について紹介があり、続く基調講演では、（公財）日本自然保護協会参与の横山隆一氏及び神宮司庁営林部長の松永彦次氏からお話をいただきました。

横山氏からは、「木曽悠久の森の価値と意義」をテーマに、「温帯性針葉樹林がまとまって残っているのは大変価値のあることであり、世界や日本でここだけ、ここが最後という自然遺産であることがこの森の最大の価値であると思う。」といったお話をいただきました。

横山参与による基調講演

松永営林部長による基調講演

松永氏からは、「式年遷宮（しきねんせんぐう）と木曽地方の森林とのつながり　～これまでとこれから～」をテーマに、20 年に一度行われる式年遷宮は 1,300 年の歴史がある行事であり、約 300 年前から木曽地方のヒノキ材を使用し、深いつながりが続いていることについて説明され、「木曽悠久の森が、木の文化と森林を守る文化の懸け橋となってほしい」とのお話をいただきました。

最後に「木曽悠久の森が目指すべき姿」をテーマにパネルディスカッションが行われ、パネリストとして上松町長の大屋誠氏、信州大学教授の岡野哲郎教授、木曽官材市売協同組合の勝野智明理事長、（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所の正木隆研究リスク管理監と横山氏が登壇して意見を交わしました。

パネルディスカッションの様子

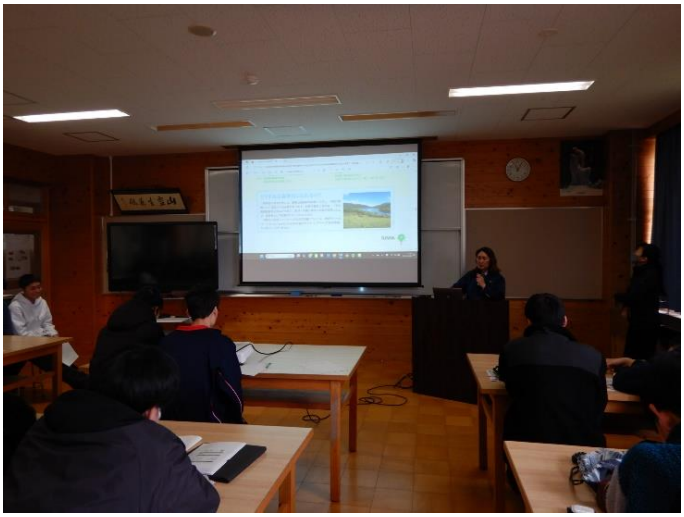
パネリストからは、各々の専門的な視点から「木曽悠久の森」への思いや提案をいただき、シンポジウムは盛況のうちに終了しました。

今後も多くの方々のご意見やご知見をいただきながら、「木曽悠久の森」が目指す森林管理に向けて当センターも調査研究や PR を進めてまいります。

木曽青峰高校で先輩から職場紹介

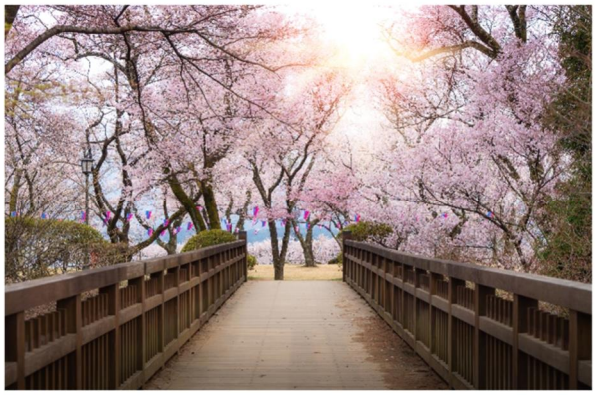
３月４日（火）、長野県木曽青峰高等学校森林環境科の１・２年生 54 名を対象に、農林講話を行いました。この講話は、生徒が地域の農林業に携わる方々から直接仕事の内容等を聞くことにより自分の将来の選択肢を広げることを目的とした授業で、今回、林業に係る講話について当センターへ依頼があったものです。

国有林は日本の森林面積の３割を占め、全国各地に所在していますが、この国有林の現場最前線で働く「森林官」の仕事を中心に林野庁入庁案内等の資料も活用して当センター職員から講話を行いました。



講義の様子

森林官の仕事内容は、国有林の調査・巡視、各種事業の監督、地元と国有林の窓口的な連絡調整等様々で、国有林職員の多くが森林官としての職務を経験していて、現場での仕事は特に充実したものであることを説明しました。

今回講義を行った職員は、青峰高校が母校（旧木曽山林高等学校）に当たり後輩に自分たちの仕事を理解してもらい、国有林で働くためには、どのようにしたらよいか先輩としての経験を踏まえて紹介する機会となりました。

今後も生徒たちの将来に役立てられる情報発信にも取り組んでいきたいと思います。